

道德教育「奈良県郷土資料」

指導資料集 3



令和4年3月

まえがき

平成27年3月に学校教育法施行規則の一部改正と学習指導要領の改訂が行われ、「道徳」が「特別の教科 道徳」として教育課程に位置付けられるとともに、小学校及び中学校学習指導要領等の一部改正が告示されました。その後、移行期間を経て、小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から全面実施されています。このたびの改正は、答えが一つではない道徳的な課題を、一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものであり、よりよく生きようとする資質・能力を育むことを目的としています。

この間、各学校においては、道徳教育やその要である道徳科の指導の充実に向け、学校の道徳教育の全体計画に基づく教科用図書を主たる教材とした年間指導計画の作成、「考え、議論する道徳」への転換を目指した授業改善など、様々な取組がなされてきたことと思えます。

県教育委員会では、平成20年度から学校における取組を支援するため、道徳教育の充実に資する資料として、奈良県の自然や伝統文化等を取り上げた道徳教育「奈良県郷土資料」及びいじめを許さない心情や態度の育成につながる道徳の内容を取り上げた道徳教育「読み物資料」を作成してまいりました。道徳科の授業では、主たる教材として教科用図書を使用しつつ、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要となります。様々な題材について郷土の特色を生かした教材は、児童生徒にとって特に身近なものに感じられ、教材に親しみながら、ねらいとする道徳的価値について考えを深めることができるため、地域教材の開発や活用に努めることも大切です。

これらのことを踏まえ、各学校における地域教材の開発や活用に資するよう、このたび、新たに作成した教材と県内の地域で作成された教材を、指導例、ワークシート及び、これまでに作成した奈良県郷土資料等の教材一覧とともに教員用の指導資料としてまとめました。これらの教材は、児童生徒の発達の段階等に応じて作成しており、郷土や自然を大切にする心を育む道徳科等の指導に役立てていただけるものと考えております。

各学校におかれては、地域の特色ある教材を活用した道徳教育の取組を推進する際の参考として、本書を活用いただき、道徳科等の指導を充実させるとともに、道徳教育の一層の推進・充実を図っていただくよう期待しています。

最後に、本指導資料集の作成に当たり多大な御協力をいただいた王寺町教育委員会をはじめ関係の方々から感謝申し上げます。

令和4年3月

奈良県教育委員会事務局

学校教育課長 山内 祐司

目次

目次	1
----	-------	---

道徳教育「奈良県郷土資料」

	指導例	ワークシート	教材
小学校低学年用			
桜がさいたよ.....	3 4 9
小学校高学年用			
雪丸の町.....	5 6 11
中学校用			
大和川の自然.....	7 8 13
奈良県の道徳教育教材一覧.....			17

道德教育「奈良県郷土資料」

指導例

1 小学校低学年用「サクラがさいたよ」

- ◆ **主題名** あとっかい 指導内容 低A 希望と勇気、努力と強い意志
- 教材名** サクラがさいたよ (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ **ねらい**

粘り強く縄跳びの練習を続けることで、二重跳びができた主人公について話し合うことを通して、あきらめずに取り組むことのよさを理解し、困難から逃げ出さず、やり遂げようとする態度を育てる。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1 頑張っていることについて話し合う。	○ 生活の中で頑張っていることは、どんなことですか。 ・漢字の練習 ・お手伝い	・普段の生活において、それぞれが頑張っていることについて自由に話し合い、本時の主題に関わる問題意識をもたせる。	
展	2 教材「サクラがさいたよ」を読んで話し合う。	○ 縄が足に勢いよく当たり、思わずしゃがみ込んだ主人公は、どんなことを思っていたでしょう。 ・絶対できっこない。 ・もう、練習なんてやめようかな。 ・何で私だけできないんだろう。 ○ お母さんから桜のつぼみの話を聞いた主人公は、どんなことを考えたでしょう。 ・本当にできるようになるのか不安だ。 ・練習を続けると必ずできるようになる。 ・もう少し頑張ってみよう。 ◎ お母さんに抱きしめられた主人公は、どんなことを考えていたでしょう。 ・あのと練習をやめなくてよかった。 ・練習を続けてよかった。 ・もっといろいろなことに挑戦してみたい。	・縄が何度も足に当たり、くじけそうになる主人公の様子を押しさえ、練習に慣れていくように共感できるようにする。 ・主人公がお母さんに「いつ咲くのか、分かんないよ。」と尋ねたとき、縄の持ち手をぎゅっと握った主人公の様子を押しさえ、入念に練習を続けるようにする。 ・ワークシートに書き込むことを通してじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 ・お母さんが続きは明日にしようと言ったにも関わらず、主人公が練習を続けた理由を押しさえ、二重跳びができるようになったときの主人公の喜びに共感できるようにする。	ワークシート
開	3 自分を振り返る。	○ あきらめずに最後まで取り組んでよかったと思ったことはありますか。また、これから頑張っていきたいことはどんなことですか。 ・一輪車の練習をずっと頑張っていて、できるようになったとき、とても嬉しかった。 ・毎日、読書に取り組んで、本を読むことが大好きになった。 ・お手伝いを続けてる。少しずついろいろなことを任せてもらえるようになって嬉しい。	・日常生活での体験や学校生活の中でやり遂げたときの喜びや充実感について話し合わせ、困難から逃げ出さず、やり遂げようとする気持ちを高められるようにする。	
終末	4 本時の振り返りをする。		・指導者自身のこれまでの体験を話し、あきらめずに取り組む気持ちを温めることも考えられる。	ワークシート

どうとくワークシート

なまえ ()

おかあさんに だきしめられた ちいちゃんは、どんなことを
かんがえて いたでしょう。

Blank writing area with horizontal dashed lines for handwriting practice. An illustration of a branch with small green and yellow buds is located in the bottom right corner of the area.

ふりがえり

Blank writing area with horizontal dashed lines for handwriting practice.

2 小学校高学年用「雪丸の町」

- ◆ **主題名** 大切なふるさと **指導内容** 高C伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度
教材名 雪丸の町 (王寺町郷土資料 王寺町教育委員会)

◆ **ねらい**

町のマスコット「雪丸」をつくり、雪丸ロードを作ったり雪丸を町の観光・広報大使として活動させたりしている王寺町の取組から、町の発展を願う人々の努力について理解し、郷土を愛し、郷土の伝統と文化を大切にしようとする態度を育てる。

◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1 ゆるキャラについて話し合う。	○ 奈良県には、どのようなゆるキャラがありますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・せんとくん ・蓮花ちゃん 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内市町村のゆるキャラを映像で写し出すなどして自由に話し合い、本時で扱う教材の内容に興味や関心をもたせる。 	
展	2 教材「雪丸の町」を読んで話し合う。	○ 今も機関車を大切に保存したり、町章に鉄道の車輪を表したりしているのは、どんな考えからだと思いませんか。 <ul style="list-style-type: none"> ・奈良県で初めての鉄道が開通したことへの誇りをもち続けよう。 ・鉄道の便がよく駅前や鉄道関係の仕事などを中心に発展してきた町だから、鉄道をシンボルにしよう。 ○ ユキコにとって、雪丸の顔が前よりしっかりした顔に見えるのはなぜでしょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・かわいいとしか思っていなかった雪丸が、町のために働いていることを知ったから。 ・町のイベント以外にも、他の町まで行って王寺町のことを知らせているから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・王寺町の歴史について、資料中の記述やこれまでに学習したことを基に話し合い、町の発展に大きく寄与した鉄道を、町のシンボルとして大切にしていきたい王寺町の人々の心情に共感できるようにする。 ・観光・広報大使としての雪丸の活動を押しさえ、マスコットとしての雪丸のイメージを自由に出し合うなどユキコにとって雪丸がそれまでのイメージとギャップがあったことに気付くようにする。 	
開	3 自分を振り返る。	◎ ゆるキャラの雪丸をつくることにした町の人たちは、どんな願いを雪丸にこめたのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・王寺町のよさを多くの人に知らせて、町に来たり住んだりしてもらいたい。 ・お店に来る人や鉄道を利用する人を増やすために、王寺町のいろいろなお店や名物、伝統などを伝えたい。 ○ あなたは、自分が住む町のどんなことを多くの人に知らせたいと思いませんか。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の夏祭りや秋祭りを紹介したい。 ・川の清掃に取り組むボランティアの人たちを紹介したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雪丸ロードを作ったり雪丸を町の観光・広報大使として活動させたりしている王寺町の取組から、町の発展を願う人々の努力について理解できるようにする。 ・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 	ワークシート
終末	4 本時の振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが感じたり気付いたりしてきてきた町のよさについて話し合い、郷土を愛し、自分たちもまた郷土の伝統と文化を大切にしていこうとする態度を育てるようにする。 	ワークシート
終末	4 本時の振り返りをする。		<ul style="list-style-type: none"> ・本時で話し合ったことを基に、これまでの郷土に対する自分自身の関わり方など振り返らせ、郷土の伝統と文化を大切にしようとする気持ちを温められるようにする。 	ワークシート

道徳ワークシート

なまえ ()

ゆるキャラの雪丸をつくることにした町の人たちは、どんな願いを雪丸にこめたのでしょうか。

Handwriting practice area with five horizontal dashed lines. A small illustration of a white dog character (Yuru-Chara) is positioned on the right side of the lines.

あなたは、自分の町のどんなことを多くの人に知らせたいと思いますか。

Handwriting practice area with three horizontal dashed lines.

ふりがえり

Handwriting practice area with three horizontal dashed lines.

3 中学校用「大和川の自然」

- ◆ **主題名** 身近な自然を考える 指導内容 D 自然愛護
- 教材名** 大和川の自然 (王寺町郷土資料 王寺町教育委員会)

◆ **ねらい**

大和川で見かけるヌートリアを巡る問題について話し合うことを通して、人間と自然との関わりを多面的・多角的に捉え、自然環境を大切にすることの意義を理解し、自然を愛し守ろうとする態度を育てる。


◆ **展開**

	学 習 活 動	主な発問と予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
導入	1 心に残る自然風景について話し合う。	○ 自然の風景を見て感動したり、心癒やされた経験はありますか。 ・見たらいい溪谷の紅葉。 ・吉野山の桜	・これまでの生活を振り返り、自然の雄大さなどに心を動かされた経験などについて話し合い、本時の主題に関わる問題意識をもてる。	
展開	2 教材「大和川の自然」を話し合う。	○ 生き物や自然に対する人間が負うべき責任とは何でしょう。 ・自分たちが生活のために必要な自然に及ぼす影響をきき合おう。 ・人間も他の生き物を食物として食べなければ生きていけないところから、生き物や自然と共存できるような方策を考えよう。 ・生き物や自然への感謝の念をももち、必要以上に荒らしたりしないようにする。 ◎ 守るべき自然とは、誰のためなのでしょう。人間は、自然とどのように関わっていていけばよいとあなたは考えますか。 ・人間が生きるための自然環境は、結局は人間のためのもので、生き物や自然と共存しない人が生きていくためにも、生き物や自然を大切に守っていく必要がある。 ・長い年月をかけてつくられてきた自然などは、どうすればそのまま残していけるのかを考え、保護することが大切。	・人間の都合で自然環境を破壊されたり、利用されることで自然環境が失われていくことを理解し、人間と自然との関係性を大切にする。 ・人々の生活のために、これまでに様々な変遷を経た大和川の環境について話し合うことを通して、自然と人間の関わり方を多面的・多角的に考えるようにする。 ・ワークシートに書き込ませ、こっそりと話し合うようにする。	ワークシート
展開	3 人と自然のよりよい関わり方について考える。	○ 未来の大和川の自然は、どのようなものになればよいとあなたは考えますか。 ・水質がよく魚などの生き物が多く住み、様々な草花等が手入れされた人々の憩いの場。 ・現在の大和川の動植物をできるだけ守りながら、より住みよい町としていくために堤防や公園などを整備していく。	・安全で安心し暮らせたい自然豊かな大和川を望む人々の思いを聞き、人と自然の関わり方を多角的に考えるようにする。	ワークシート
終末	4 本時の振り返りをする。		・本時で話し合ったことを振り返り、自然環境や人間との関わりについて、自分自身で考える機会をもち、自然を愛し守ろうとする意識をもてるようにする。	ワークシート


道徳ワークシート

名前 ()

自然とどのおうにんわっていけばよいとあなたは考へますか。



未来の大和川の自然は、どのようなものになればよいとあなたは考へますか。



ふりかえり

サクラがさいたよ

大和高田市にある「大中公園」には、たくさんのサクラがうえられています。春には公園がサクラの花でうめつくされ、「高田の千本さくら」として、多くの人がお花見を楽しみます。けれど、冬の「大中公園」のサクラには、花びらどころか、はっぱもほとんどありません。たくさんうえられているサクラが、冬のつめたい風にゆらされて、さむざでふるえているようでした。



冬の大中公園

ちいちゃんの学校では、三学期の昼休みに、全校でなわとびのれんしゅうをしています。ちいちゃんの目ひようは、二重とびです。ところが、何度やってもうまくできません。ちいちゃんは、まい日、学校から帰ると、お母さんといっしょに「大中公園」でひみつのとつくんをしていました。

トントントン、ヒョンヒョッ。

バチッ。

「いたっ。」

なわが、足にあたり、ちいちゃんはあまりのいたさにしゃがみこみました。

「ちっともできない。ずっとがんばっているのに。」

そんなちいちゃんを見て、おかあさんは言いました。

「ちいちゃん。サクラのえだをよく見てごらん。」

えだの先を見てみると、ふっくらとした茶色のつぼみ、うすみどりのつぼみがたくさんありました。

「うすいピンクのつぼみもある。もうすぐさくのかな。」

「サクラは冬の間、はっぱもなく、じっとねむっているみたいでしょ。けれどね、春に花をさかせるために、少しずつせい長しているのよ。それとね、花がさく時期も、

つぼみによって、ちよっと早かったりちよっとおそかったり、ちがうんだよ。」

ちいちゃんは、もう一度つぼみたちを見上げました。

「おかあさん。サクラのつぼみは、自分がいつさくのが、分かっているのかなあ。」

「どうだろう。いつさくかは分からないけど、きつときれいな花がさくとしんじて、さむさにたえてがんばっているんじゃないかな。ちいちゃんの二重とびの



サクラのつぼみ

花も、きつとさくわよ。」

お母さんは、ニコッとわらって言いました。ちいちゃんは、まわりのサクラを見ながら、なわのもち手をぎゅつとにぎりしめました。
(さくのをしんじて がんばるか。)

トントントン、ヒュン。

トントントン、ヒュッ、バチッ。

ちいちゃんは、なんどもなんどもとびました。そろそろあたりがくらくなってきました。公園にはちいちゃんとお母さんしかいません。

「ちいちゃん。もうくらくなってきたから、つぎは明日にしよう。」

「あと一回だけ。あと一回だけ。つぎで終わりにするから。」

ちいちゃんは、しっかりなわをもって、心の中でかけ声をかけます。

(せえのっ。)

トントントン、ヒュヒュン。

(とべた？もう一度。)

トントントン、ヒュヒュン、ヒュヒュン、ヒュヒュン。

「あっ。とべた！」

「ちいちゃん。やったね。すごいね。とべたじゃない。」

お母さんがかけよって、ちいちゃんをぎゅつとだきしめました。

「やったあ。わたしにもできたよ。二重とびの花がさいたよ。」



春の大中公園

○ お母さんにだきしめられたちいちゃんは、どんなことを考えていたでしょう。

○ あきらめずにさい後までとり組んでよかったと思つたことはありますか。また、これからがんばっていきたいことはどんなことですか。

雪丸の町

「この像、雪丸だね。」

JR王寺駅の中央改札から北側の階段を下りると、ユキコの目の前に石でできた犬の像がありました。お父さんがユキコに言いました。

「そうだよ。本物の雪丸像はどこにあるか知ってる？」

「達磨寺でしょ。三年生のときに勉強したよ。この像はゆるキャラの方の雪丸。」

そう話すユキコにはほえんで、お父さんは言いました。

「王寺駅から達磨寺までの道には、雪丸の足跡がつけられていて、訪れる人を案内しているよ。雪丸ロードって言うんだって。王寺駅には町外からも多くの人が集まるから、聖徳太子の愛犬といわ

れる雪丸や達磨寺のことを知らせて、訪ねてもらえるようにしているんだね。」

お父さんの話を聞きながら、ユキコは王寺町のうつりかわりについて学習したことを思い出していました。

今から約一三〇年前、奈良県で初めての鉄道が王寺―奈良間に開通し、その後、王寺からは大阪や大和高田などとも鉄道でつながるようになりました。さらに、田原本や生駒とつながる路線もつくられるなど、「鉄道の町」として王寺町は発展してきました。もとは農村でしたが、駅前を中心に商店がつくられ、鉄道関係の仕事をする人々が

住むようになりました。人口がどんどん増え、九〇年余り前の一九二六年に、ついに町制が施行されて王寺町となったのです。

「新王寺駅の東側にある舟戸児童公園には蒸気機関車が置いてあるよね。デゴイチだったっけ。」

「そうそう。昔、実際に走っていた機関車で、今も鉄道の町のシンボルとして大切に保存されているんだよ。王寺町のマークは〇（まる）の中に王という字がデザインされているけど、〇はローマ字のOの頭の文字という意味だけでなく、鉄道の車輪を表したものでもあるそうだよ。」

「ふうん。鉄道の町かあ。」

買い物の後、お父さんとユキコは地域交流センターに行きました。「雪丸ミニプラザ」



王寺駅北口の雪丸像



達磨寺の雪丸像



王寺町の町章